



積極的なタブレット端末の活用を

新年あけましておめでとうございます。今年は十二支で5番目の辰年。「辰」は中国の『漢書 律歴志』では「とこのう」を表し、「草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子」を表している(ウイキペディアより)といった意もあるようである。そのことにあやかり、我々にとっても、目標達成に向けて必要なことを「とこのう」ことで、成長が見られる一年でありたい。

今回は中教審の「令和の日本型教育」の構築を目指して(答申)「総論解説」から考えてみたい。まず、社会背景のキーワードに「Society5.0」、「予測困難時代」、「デジタル化、オンライン化、DX加速の必要性」等のキーワードがある。これらのキーワードは誰もが聞いたことがあるし、実際、社会生活をしていて、肌感覚で実感している方も多いのではないだろうか。現在、短いスパンでいろんなことが起きている。例えば以前、所報に書いたチャットGPT(生成AI)についても、いろいろな業種で活用が進んでおり、教員の中にも教材研究等で活用している方々もいるであろう。そのような社会の変化のスピードに我々は戸惑うことなく、これまで通り学習指導要領の着実な実施に向けた取組は必須である。それに加えて、学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT機器を積極的に活用することも必要不可欠であることを確認したい。なぜなら、子ども達が社会で活躍する頃は、社会のDX化がより進み、ICT機器等の活用は必要不可欠となっていることは、容易に推察できる。その事から、これまでの実践とICTを最適に組み合わせていく取組(計画)が大切となる。

本教育研究所が9月に実施した教員のICTに関する研修報告書結果から、各校でICT支援員等を活用した研修が実施され、授業で活用するためのアプリや授業支援ソフトの研修、校務支援に関する研修等、各校の実態に合った研修会により、教育活動における教員のICT活用が着実に進んでいる事が伺える。特に授業に特化した質問で「授業中に児童生徒がICTを活用することができましたか」では、「できる、ややできる」と回答した割合が、小学校で87%、中学校86%と高い結果となっている。多くの教員が「令和の日本型教育」の構築に向けて真摯に取り組んでいる姿であると捉える。このようにアンケート結果は、数値上は概ね良好な推移が見られるが、一部気になる結果もある。児童生徒が活用していない理由の一つに、「タブレットの使用に関するルールを守れない児童生徒が多い」「どの単元や内容でタブレットを活用するかの計画が立てられない」といった回答が見られた。

まず、ルールを守るといった規律面においては、タブレット活用に特化したことだけではなく、学校生活のあらゆる場面で見られる。そのため、どの学校でも、課題を全体共有し、学習規律の徹底に向け実践しているであろう。仮にも規律が守れていない一部の児童生徒がいることで、全体のタブレット端末の活用が進まないといったことは避けなければいけない。児童生徒が学習場面等において、使いたいときにいつでも使えるように全校体制で効果的なタブレット端末の活用を推進すべきだと考える。

次に単元の活用場面についてである。多くの学校で、授業の終末や単元末で学習内容の定着を図るためにタブレットドリルの活用が進んでいる。どこで活用すべきか悩まれている先生は、教科等の年間指導計画の中に、単元末等でドリルの活用を位置づけてみてはどうだろうか。他にも、探究的な学習を通して情報を整理、分析する内容にもタブレット活用は有効である。また、個人的には、技能教科や理科等にも、タブレット端末の活用は相性が良いと思う。例えば、運動や鑑賞、調理・裁縫、観察・実験などの動画を撮れば、自分の気になる場面を、いつでも振り返る事ができ、より個別的に学ぶことができるであろう。是非、児童生徒の視点で、積極的なタブレット端末の活用を図ってみてはどうか。

令和5年度 1月 事業予定 26(金) 情報教育研修並びにICT情報教育推進部会⑦ オンライン

令和5年度 12月 教育研究員 12(金) 所内講座⑥「特別活動」
24(火) 中間検討会Ⅱ



検証授業の様子



タブレット活用講座

今年も辛多き年でありませう
心よりお祈りいたします

那覇市立教育研究所 所員一同
令和6年 元旦

謹賀新年